江見印刷紙工 株式会社

インクジェット印刷機と サンプルカッティングマシンが 紙器製造工程の最適化に貢献

多様な紙容器を、最適な生産体制を駆使して提案

導入したインクジェット印刷機

導入した紙そろえ機、作業工程の省力化に積極的

事業内容 ここ数年は投資活動を積極的に

昭和2年に大阪市福島区で創業し、江見昌久社長が3代目。現在の紙資材を扱う仕事への意気込みについて、「物心がついたころに、この仕事を引き継いでいくものだと思っていた」と江見社長は振り返る。「江見印刷紙工」は百貨店や弁当箱の資材を中心に生産する容器メーカーで平成１２年以降、設備投資に力を入れているようになった。平成２３年に大阪府松原市の常磐印刷（株）〈現 松原加工センター〉をM&A（企業買収）した。買収した当時、菓子向けのサンプル品資材の生産が中心だった。

ここ最近は、１―2年に1回の頻度で設備投資をしている。品質管理と利益率向上を狙い、新規設備の導入で内製化率を上げている。外注比は5―10年前と比較して、半分以下になった。「生産性が上がれば十分ペイできるし、実際している」と江見社長は話す。作業工程を大幅に内製化したことで、商品の不良も低減したという。

補助事業 面板作成のボトルネックを解消

平成２７年春にローランド ディージィー社のインクジェット印刷機を1台とサンプルカッティングマシンを1台導入した。導入した設備でパッケージ色校正印刷やサンプルカット、抜き型作成を内製化した。外注していた一連の作業を内製化して、面板作成のボトルネックを解消するねらいがあった。また、熟練工に依存していた面板作成をサンプルカッティングマシンの導入でデジタル化。

従来は製品のサンプルを容易に製作することができなかった。しかし、設備導入後は、ＣＡＤで設計してサンプルカッティングマシンでカットするという生産ラインを作りあげた。薄い紙を厚紙に貼り付けることで対応し手間がかかっていたため、小ロットの製品は断っていた。だが、厚紙の印刷が容易になったため、小ロット製品の依頼も快く応じている。「小さい仕事もやりつつ、大きな仕事につなげていきたい」と江見社長は語る。

具体的成果 熟練工のノウハウもデジタル化

インクジェット印刷機で、パッケージ向け厚紙でも印刷できるようになった。また、データさえ手元にあれば容易に出力できることから顧客の要望に迅速に対応している。インクジェット印刷機により大幅な売り上げ増があったというわけではないが、取引先に多様性が生まれてきた。従来手薄だった製品群の依頼、例えば「商品ポップ向けの仕事が多くなってきた」と江見社長は効果を実感している。

またサンプルカッティングマシンの導入を契機に熟練工のノウハウのデジタル化を進めたため、コストダウンや納期を短縮することに成功した。インクジェット印刷機がきっかけで、顧客の細かな要望に深く耳を傾けるようになった。「フィードバックを地道に続けていけば、必ず大きな仕事に結びつくはず」と江見社長は話す。

企画・設計、試作品、印刷、表面加工、打ち抜き加工、貼り加工、検品、組立、詰め加工いう作業工程をそろえ、紙資材メーカーとして一貫したシステムを完成した。工場には30年来、現役で稼働している設備もある。インクジェット印刷機が、長きにわたり「江見印刷紙工」の屋台骨を支えるような設備となる時期はそう遠くはない。

今後の戦略 技能伝承が今後の課題

小ロットの製品に対応できるとしており、そうした受注も増えてきた。ただ、江見社長は、「それで商売をしていく気はない」ときっぱり話す。仕事の幅を広げ、提案できるアイデアを少しでも増やして大口の顧客を開拓していくねらいがある。また、医療分野にも照準を合わせていく。

平成２８年２月には、紙そろえ機を導入。従来、人力で使用する紙資材を積み上げていたりしていたため、作業効率が悪く重労働を強いられていた。これまでのやり方では、作業中に腰を痛める社員もいた。紙そろえ機の導入により、紙資材をひっくり返す手間も省けた。紙資材を取り扱う企業として、一貫した生産設備や検品体制を整えた。

だが、技能伝承に課題があるという。平成２５年に江見社長の息子が同社に入社した。「今まで培ってきたことを、いかに確実に後に伝えていくかが悩みのタネ」としており、江見社長は技能伝承に力を入れていく方針を示している。

江見印刷紙工 株式会社

代表取締役社長 江見 昌久

〒581-0865 大阪府八尾市若林町2−112

TEL. 072−948−0100

FAX. 072−948−1638

資本金／10,000千円

従業員／34名

短納期 企画力 小ロットOK 試作OK 連携力

フィードバックの早さが強み

代表取締役社長 **江見 昌久**

フィードバックの早さが強みです。「今日受注した製品は、明日には発送するように」と社員に常に指示しています。

http://www.emi-pr.co.jp/

取材を終えて

ためらっていた仕事 こなすきっかけに

作業工程の内製化が会社成長のキーワード。ここ数十年でそれを重視し、設備投資を活発にしてきた。インクジェット印刷機の導入が大きく売り上げに貢献しているというわけではないが、これまでためらっていたような仕事をこなすきっかけとなった。現在は、種まきの段階。今後、どのように育ち、実を結んでいくのか気になるところ。引き続きウォッチしていきたい。